

旧逓信省下関電信局電話課庁舎

現・下関市立近代先人顕彰館(愛称:田中絹代ぶんか館)

山口県下関市

下関市立近代先人顕彰館(田中絹代ぶんか館)は、現存する数少ない「逓信建築」だ。所在地は、俳優・田中絹代の出身地、山口県下関市。現在からちょうど100年前の1924(大正13)年、逓信省下関電信局電話課庁舎として建築された。職業婦人の先駆けともなった電話交換業務の庁舎である。2010年に現在の建物にリニューアル、下関ゆかりの文化人を顕彰し、下関の文化情報を発信している。1924年は、田中絹代が俳優として映画デビューした年。建物の歴史に俳優人生が重なる。

シンプルでモダンな外観などから、ヨーロッパの新建築運動(セセッション)の影響を受けた「分離派建築会」の要素を強く持つ。設計は旧逓信省営繕課。設計者は不明だが、同課の山田守か森泰治と推測されている。RC造(煉瓦造混構造)2階建て(一部3階建て塔屋付)延べ836㎡。具体的な特徴は塔屋のヴォールト屋根、3階の連続半円アーチ窓、柱頭飾りを持たない付柱など。内部にも大正後期の意匠が色濃く残る。1966年に電話交換局の役割を終えて下関市の所有になり、市役所の別館などとして使われた。その後、老朽化によって解体撤去することが一度は市議会で承認されたが、市民団体や日本建築学会などの強い保存運動で覆り、1999年に保存が決定した。2002年には下関市指定有形文化財にも登録された。

1階は下関にゆかりのある作家とその作品などを紹介するふるさと文学館。2階が田中絹代記念館で、田中の遺品をはじめ膨大な写真や映画資料などの展示品が約1,000点にもものぼる。学芸員による丁寧な解説文も添えられ、彼女の人生がいきいきと伝わってくる常設展になっている。3階の休憩室は誰でも使うことができるフリースペース。電話交換局として使われていた頃も休憩室として従業員に開放され、オルガンを弾いたり、読書をする当時の写真が残っている。



2階での電話交換業務は竣工当初、男性50人、女性185人が1日24時間3交代制で勤務していた。交換手は女性に限られ、高い職務能力と社会意識を身につけていることが求められていた。男性職員は主に電話線や機械の整備を担当した。2階床には荷上げ用の開口部が設けられていて、現在もその足跡を見ることができる(提供:菊池潤氏)



3階の休憩室



階段の手摺にも大正時代の雰囲気を感じさせる意匠が見られる。改修工事前後の様子を伝える写真が、1階から3階にかけて展示されている